

PRO MUSICA NIPPONIA



# 日本音楽集団

第128回◆定期演奏会・春の総合定期

長沢勝俊の世界～清らかな郷愁



1993年5月12日(水)午後7時開演  
津田ホール

主催／日本音楽集団  
制作協力／奈良音楽事務所

# プログラム

## 長沢勝俊作品集

### 一、組曲「人形風土記」より（1966年）

〈流しびな〉 〈のろま人形〉 〈ニポポ〉

[ 笛 ] 竹井 誠 [尺 八] I = 米澤 浩 II = 水川寿也  
[三味線(太棹)] 田中悠美子 [琵琶] 田原順子  
[ 箏 ] I = 花房はるえ II = 山田明美 [十七絃] 熊沢栄利子  
[打楽器] 細谷一郎・前田文男

### 二、萌 春—尺八・箏による—（1971年）

[尺 八] 宮田耕八朗  
[ 箏 ] 白根きぬ子

### 三、颯 踏—<sup>さつ</sup> <sup>とう</sup> 笛と打楽器のための音楽—（1975年）

[ 笛 ] 西川浩平  
[打楽器] 尾崎太一・西川啓光

————— 休 憩 —————

### 四、トンコリのうた（新作初演）

[二十絃箏] 木村玲子  
[十七絃] 宮越圭子

### 五、二胡協奏曲（新作初演）

[二胡独奏] 姜 建華(客演)  
[ 笛 ] 竹井 誠 [尺 八] I = 藤崎重康 II = 水川寿也 III = 米澤 浩  
[琵琶] 田原順子  
[ 箏 ] I = 花房はるえ II = 山田明美 [十七絃] 熊沢栄利子  
[打楽器] 前田文男・白杵美智代  
[指揮] 稲田 康

## 客演プロフィール

### 姜 建華 (ジャン・ジェンホア)

中国、上海に生まれる。10歳の時、叔父から二胡を学び、13歳から海外音楽活動を開始、ヨーロッパ、アフリカ、東南アジア等を舞台に演奏活動を行った。

1978年、指揮者小澤征爾が中国訪問の際、姜建華の演奏する「二泉映月」に感動し、彼女をアメリカに招き、タングルウッド音楽祭に参加出演、更にボストン交響楽団並びにサンフランシスコ交響楽団と協演を実現し、多くの賞賛を得た。その後、1981年全国器楽コンクールの第一賞に入賞、1986年中国文化部より国家一級演奏家と

して荣誉ある認可を受けた。

1986年11月、サントリーホールのかげら落としに、安生巖が姜建華のために作曲した二胡協奏曲「風影」を小澤征爾指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団と協演。1988年カザルスホールのかげら落としとしてリサイタルを開く。同年、「小澤征爾—子供と語る音楽会」で二胡独奏による「ツイゴイネルワイゼン」を演奏し大成功を収めた。

その他、東京フィルハーモニー交響楽団、新星日本交響楽団、アンサンブル金沢等、オーケストラとの共演は数多く、又、ポピュラー方面では坂本龍一作曲による「ラストエンペラー」の映画音楽での演奏が広く知られている。

# ごあいさつ

長沢 勝俊



日本音楽集団とともに歩みつづけて今年で29年。今回の第128回定期演奏会は、10年ぶりに私の作品特集となりました。その全てが集団のために書いた作品であり、前半の3曲は集団のレパートリーとして、数多く演奏されつづけてきたものです。後半の2曲は私が初めててがける編成による新作です。

私は演奏者のエネルギーと、作曲者の意欲とがその信頼感の上にしかりとかみあった時にこそ、集団の本領が発揮されるものと確信しております。

この演奏会を企画して下さった団員に熱い連帯のおもいを新たにすると共に、長年にわたり集団を支持して下さいる多くの皆様方に厚く御礼申し上げます。

## 曲目解説 長沢勝俊

### 組曲「人形風土記」

全6曲よりなる組曲。日本には数多くの単純、素朴な郷土人形や郷土玩具があります。これらは、われわれが祖先から受けついできた生活や心を、しっかりと形におさめ、現代に受けつがれています。

集団結成後3年目に出来たこの曲は、各種楽器の組合せに熱中していた時代であり、1曲目と6曲目の全合奏以外はさまざまな編成が試みられています。今回は次の3曲が演奏されます。

1. 流しびな——鳥取地方に古くから伝わる民俗行事から生れたもの。川にひなを流して厄をはらい、子供の健康と幸福を祈るといふ。
2. のろま人形——佐渡で作られる首人形。300年前に江戸から伝えられたという。
3. ニポポ——古くからアイヌに伝わる木彫りの信仰人形。ニポポとは、木の小さな子という意味。

1966年に作曲、同年の日本音楽集団第4回定期演奏会で初演されました。

### 萌春—尺八・箏による—

尺八（1尺6寸管）と箏による二重奏曲です。

四季の変化に富んだ日本。特に日本の春は急速にやってくる北国の春とちがい穏やかで心なごむものです。しかしそのなごやかさの中にも、ささやかな新しい生命の誕生と躍動が私達に生きていることの喜びを強く感じさせます。

集団の合奏曲を作曲する中で会得したさまざまな技法を、私なりの音楽語法で二重奏のなかになぞり表現するかと心をくだいた作品です。

1971年に作曲、同年の日本音楽集団第15回定期演奏会で初演されました。

## 颯踏—笛と打楽器のための音楽—

しの笛と能管、それは同じ横笛でありながらその性格はまったくことなっています。

しの笛には長短各種の音域の管があり、それぞれのピッチにあった合奏を行ってきたのに対し、能管はただ一本であらゆる調子の音楽と合奏するという特性を持っています。

しの笛がもつばら繊細な音色により、抒情的なメロディーを吹き、また軽快な祭囃子の世界で活躍してきたのに対し、能管は能楽をはじめ長唄囃子や神楽囃子等において、そのおおらかな音色や、するどい一吹により独特の世界を形成してきました。そしてこの両者とも多くの場合、各種の打楽器との合奏により、その輝きを一層きわだたせてきました。

曲は二つの部分より出来ており、笛（しの笛と能管）と各種打楽器の自由な組合せにより、古代の響を聴くと同時に、現代の心をかよわせたいというねがいをもちて作曲したものです。

1975年に作曲、同年の日本音楽集団第30回定期演奏会で初演されました。

## トンコリのうた

トンコリとはアイヌ民族の代表的な絃楽器。樺太アイヌの名称で、tun(ふたり) ko(対して) re(響かす) であるともいわれています。絃はふつう5絃で、独奏が主で歌や踊りの伴奏にも使われているようです。

二十絃と十七絃の二重奏曲を作曲するにあたって、二人の奏者の心のやりとりや自然な語らいをテーマにしたいと考えていました。

たまたま今年が国際先住民年。神々とともに、自然とともに、生きつづけ自分のところを揺らしてきたアイヌ民族の楽器トンコリ(ふたり・対して・響かす)に思いをよせ、この名をつけました。

曲は短い序奏のあと、急・緩・急という三つの部分より出来ています。

## 二胡協奏曲

1983年第10次海外公演が日本音楽集団、中国音楽家協会共催、文化庁助成により北京と上海において行われました。

私は中国中央民族楽団との共演曲として「寿歌」を作曲、世界初演されたのですが、その際最も印象に残った楽器が二胡でした。中国の二胡と日本の胡弓との関係は簡単には論じられませんが、その発生の起原は同一とみる意見が多いようです。

二胡の哀調をおびたなかにもマイルドな趣をふくんだ表現の豊かさ、そして早いテンポを自由に弾きこなせる運動性等、私にとって魅力あふれるものでした。

二胡の集団との共演は、その時以来の夢でしたが、この度二胡の名手姜建華さんを迎えての初演は、中国公演以来の課題の一つを果たせた思いです。

## 個人協賛の御礼

このたび第128回定期演奏会を推進するに当たり個人協賛をお願い致しましたところ、多くの方々から心のこもったご支援を賜りました。皆様方のご厚意に対し心より御礼申し上げます。

日本の経済状況も昨年以來厳しいものとなっており、音楽集団の活動にもさまざまな形で影を落としているこんな折、皆様の方の厚意をいただきまして大変心強く思う次第でございます。皆様方のご支援にこたえて良い音楽を作らねば、と一同決意を新たにす所存です。どうもありがとうございました。

## 第128回定期演奏会個人協賛御芳名

青柳 堯	瀧沢 修
足達 静賀	ないとうひろお
荒谷 俊治	野口 鎮
猪俣 カツ	西田 露秋
小田切清光	人形劇団プーク
上迫田日呂子	古川 郁代
岸 彰則	明鏡楽器
琴光堂和楽器店 中島隆	(五十音順・敬称略)

# 長沢勝俊の音楽世界

上野 晃

長沢勝俊の個展が、日本音楽集団によっておこなわれるのは、これがいく度目だろう。1971年の第15回定期演奏会、1983年の第79回定演、この二つが印象深く思い出されるのは、前者では、あのたおやかな旋律美を自在にした《萌春》の初演、後者では、ソノリティの透明感著しかった《鳥と砂と海と》の初演、それらに出会ったからに違いない。あとのほうのプログラムには、《飄踏》の再演もあったが、笛と打楽器によるまさに曲名に相応しい簡素と洒脱が聴かれた。またその年は、長沢氏の還暦と同時に作曲活動三十五年が祝われた。さらにそこからかぞえて、今年は古稀にあたり、四十五年の作曲歴になる。

私には、長沢作品を聴いていて、氏がとても東国の人と思えないことがしばしばある。だが、東京は新宿の生まれだという。なぜ!?～しかしその後のさまざまな氏の遍歴を考え合わせると、疑問が解ける一ときもなくはない。1964年の日本音楽集団結成以来ずっと、三木稔とともにこの現代邦楽のメッカにいて、作曲と組織の運営に携わってきた。すでに二人三脚の相棒は転進したが、つい昨年まで三十年近くも団の代表者を全うしてきた長沢氏である。心よりご苦労さまといわなければならないが、そもそも書齋派や孤高型の人でなく、最初からいわば現場の音楽家として、人形劇団〈プーク〉の時代、記録映画の音楽を手がけた時期から、長沢流の営みは続いている。

太平洋戦争真ただなかの20歳、いよいよ作曲熱が昂じて日大芸術学部に入學したもの、わずか三ヵ月で学徒出陣、スマトラの戦場へと送り込まれた彼は、敗戦までどうにか生き伸び、二年の抑留生活のあいだにアコーディオンを奏するようになり、1947年秋に帰国するまで、作曲の勉強は中断したまま、ついに大学には戻らなかった。復員後の身を援けることになったアコーディオンとともにいった人形劇団での思想的開眼、そして四年間にわたる清瀬保二に作曲師事が、長沢氏の進路を決定的にした。アコーディオンを肩に〈プーク〉と全国巡回の旅先で接した民俗芸能の数々、子どもたちのための新しい劇音楽の創造。日本音楽集団における初期作品《子供のための組曲》や《子供の四季》、それに何より《人形風土記》は、劇団生活での体験なしに考えられない。

こうしたさまざまな現場や厳しい環境、芸術諸分野の人たちとの接触をつうじて、長沢氏の音楽は成長していった。労多ければ多いほど長沢作品は、闊達にディヴェルティスマンを屈託なく奏でる。その美旋律は、フレーズングや運びと切り離して成就しない。むしろ速くないテンポに長沢作品のメロディラインの秘密があるような気がする。いつのまにか〈ナガサワぶし〉と呼ばれるくらい、明色のメロディアスで流動感の快い音楽は、誰からも親しまれてきた。が、近ごろは、情緒的なテクスチュアからそっと抜け出て、恬淡たるストイックともいえる抒情を聴くシーンが少なくない。敏感にしてデリケートな音色を伝えてくる楽案が目立ってきた。勿論今度の新作にも、そういった意味で期待が膨らむ。

# 心のふるさと

## 長沢音楽に魅せられて

(詩人) 小田切 清光

長沢勝俊先生の音楽が大好きです。どのぐらいと訊かれたら、両手を思いきりひろげて即答するのですが、書くとなるとその大きさをそのままそっくり表現出来ますか——。

私が初めて長沢先生の音楽を聴いたのは、随分むかしのことです。このことは以前にも書いたので重複しますが、戦後間もない頃で人形劇団プーク公演「桃太郎」の時です。私は高校生だったか卒業していたか、とにかく十代の日で、どのようにして知ったのか詳細は忘却の彼方へ消えてしまいましたが、有楽町の読売ホールに伺っていました。そして、そこで聴いた音楽は心の奥にしみ込んで、今でもあの清冽な笛の音がひびいて来ます。私は偶然入ったホールで、全身に戦慄が走る感動を体験したのでした。この曲の作曲者はなんという名だろうとプログラムを見て、長沢先生の名を知り、思えば何年も忘れずにいたのですから、物忘れの多い私としては珍しいことで、我ながら驚きです。

長沢先生の音楽は、そういう音楽です。忘れられない魅力を持っています。

1965年、三木稔先生の作曲で、私の詩が合唱曲になることになり、三木先生と知遇を得、三木先生から日本音楽集団の定演へお誘いを頂きました。それは第2回定演で、日仏会館だったと記憶します。その定演で、私は思わず心の中で歓声を上げたのです。「この音楽だ！ このお名前だ！」約20年振りでした、長沢先生の音楽に再会したのは。

運命の神様に私は投げキスをとばしたほどでした。私の投げキスを運命の神様はキャッチしてくれたのでしょうか、以後、長沢先生の音楽をたくさん聴かせて頂く幸運に恵まれました。その上、私の詩に長沢先生が曲をつけて下さる栄誉を得ました。

1976年、青山タワーホールで初演した「遡河」がそれです。琵琶の弾き語りで、半田綾子さんの演奏でした。(半田さんは名を淳子さんに変えられました。)長沢先生の素晴らしい旋律、半田さんの張りのある美声と表現力で大成功。東京創作舞踊団による舞踊作品になり日生劇場の公演。NHK FMの放送等々、うれしい日が続きました。長沢先生の音楽を舞踊で使わせて頂く機会が、度々ありました。

数年前、長沢先生がご病気をされたとのことでしたが、ご回復されてホールでお元気な長沢先生にお会い出来て、ほっと安堵した矢先、私が倒れてしまいました。いやはや一昨年 of ハプニングで、予期せぬ半盲というハンディを背負ってしまいました。病床で音楽と親しむ日々を持ってました。

どれ程、長沢先生の音楽で泣いたことでしょう。どれ程、励まされたことでしょう。

悲しい時、心に底冷えを感じる時、長沢先生の音楽はそっと励まし、あたたかく癒やして下さる力を持っています。肩に手を掛けて親しく勇気づけて下さる音楽です。しみじみとした、ほのぼのとした、心のふるさとのように思えます。心の中心にひびいて、いつの間にか素直になっている自分に気づきます。

長沢先生の音楽を聴いたあとは、腹の立つことに出会っても、ずっとやり過ごせるような優しい心になっています。自己顕示的のところや煽動的なところはなく、慎ましく素朴で土のぬくもりを感じます。表現に曖昧さはなく、それ故に抒情性は深い透明感を持ち、あたたかさを失わず、おおらかに包んで下さいます。そこに長沢先生の音楽の魅力があり、先生の豊かな人間性の現われと思います。

キリキリギスギスした時代故に、より多くの人達に長沢先生の音楽を聴いて欲しいと願います。心のふるさとへ帰省して、美しい心を取り戻すために——。

## 日本音楽集団(1992年12月から)の主な活動記録

1992年

- 12月12日(土) 日本音楽集団コンサート〈邦楽器の玉手箱〉 新所沢公民会館ホール  
12月12日(日) 佐世保市制90周年コンサート 佐世保市民会館  
12月15日(火) 坂戸公演 坂戸文化会館

1993年

- 1月22日(金) 埼玉音鑑コンサート 大宮ソニック・シティ  
1月23日(土) 新春のおくりもの かつしかシンフォニーヒルズ  
1月28日(木) 第127回定期演奏会——第4回〈邦楽器の祭典〉 津田ホール  
2月10日(水) 関市中学校音楽鑑賞会 関市文化会館  
2月25日(木) 日朝文化交流コンサート 新宿文化センター  
3月26日(金) 日本音楽集団若葉マークコンサート 9 アコスタディオ  
3月27日(土) 日本音楽集団演奏会 横浜市開港記念会館  
3月28日(日) 久喜公演 久喜総合文化会館  
4月18日(日) 全日本着物コンサルタント協会 N H Kホール  
4月18日(日) 愛媛三曲協会30周年記念演奏会に出演 県民文化会館サブホール  
4月19日(月)~21日(水) 愛媛県宇和郡巡回学校公演  
5月12日(水) 第128回定期演奏会——長沢勝俊の世界 津田ホール

## 日本音楽集団今後の主な活動予定

- 5月26日(水)~6月2日(水) 高松市中学校巡回公演  
6月5日(土) 日本音楽集団演奏会 江南市民文化会館小ホール  
6月14日(月)~18日(金) 佐賀県巡回学校公演  
6月20日(日) 千葉県佐倉市青菅小学校音楽鑑賞教室  
6月21日(月)~25日(金) 長崎県巡回学校公演  
6月27日(日) 大田音楽フェスティバルに参加 大田区民プラザ  
7月8日(日) 埼玉県上福岡市内中学校公演  
7月9日(月) 第129回定期演奏会——今、祭が熱い 津田ホール  
7月16日(金) 日本音楽集団演奏会 永代信用組合本店ホール  
7月27日(火) 新中野公会堂オープニングコンサート なかのZEROホール  
9月29日(水) 第130回定期演奏会——箏特集 津田ホール  
11月29日(月) 第131回定期演奏会——秋の総合定期 津田ホール



健康はご家族の大きな財産。  
だから備えが必要です。

- ※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
- ※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店  
明和損害保険企画  
R M 小笠原 明男 オフィス ☎3937-0547  
安田火災海上保険麹城北支社 ☎3962-7311

PRO MUSICA NIPPONIA  
日本音楽集団

名誉代表 長沢 勝俊  
代表 田村 拓男  
副代表 尾崎 太一  
運営委員長 米澤 浩  
事務局 霜島 素子  
奈良 義寛 (参与)  
監事 芹沢 英雄

名誉団員 山田美喜子

団員連名

〈正団員〉

西川 浩平 (笛)  
宮田耕八朗 (尺八)  
坂田 誠山 (尺八)  
三橋 貴風 (尺八)  
藤崎 重康 (尺八・笛)  
竹井 誠 (尺八・笛) 運  
米澤 浩 (尺八) 運  
水川 寿也 (尺八) 運

水谷 雅康 (尺八)  
添川 浩史 (尺八)  
畦地 慶司 (胡弓・作曲)  
野口美恵子 (三味線)  
太田 幸子 (三味線)  
箕田 司郎 (三味線) 運  
田中悠美子 (三味線)  
工藤 哲子 (三味線)  
田原 順子 (琵琶)  
坂田 美子 (琵琶)  
坂井 敏子 (箏・三味線・胡弓)  
白根さぬ子 (箏)  
吉村 七重 (箏)  
花房はるえ (箏・三味線)  
宮越 圭子 (箏) 運  
木村 玲子 (箏)  
内藤 洋子 (箏) 運  
熊沢栄利子 (箏)  
大島菜穂子 (箏)  
島崎 春美 (箏)  
久東 寿子 (箏)  
桜井 智水 (箏)

山田 明美 (箏)  
尾崎 太一 (打楽器)  
西川 啓光 (打楽器)  
高橋 明那 (打楽器・指揮)  
黒坂 昇 (打楽器)  
細谷 一郎 (打楽器)  
前田 文男 (打楽器) 運  
望月太喜之丞 (打楽器)  
田村 拓男 (指揮・打楽器)  
稲田 康 (指揮)  
長沢 勝俊 (作曲)  
秋岸 寛久 (作曲)  
中島 隆 (楽器係)

〈準団員〉  
西原 貴子 (笛)  
西原 祐二 (ヒチリキ・笙)  
石田 忠史 (尺八)  
加藤 秀和 (尺八)  
坂口 美香 (三味線)  
原田富士江 (三味線)  
山田まゆ美 (琵琶)  
石田 さえ (琵琶)  
佐藤 里美 (箏)  
高橋はるな (箏)  
安武由香理 (箏)  
外山 香 (箏)  
大泉 一美 (箏)  
城ヶ崎美保 (箏)  
白杵美智代 (打楽器)  
立枝 恵子 (打楽器)  
杉浦 邦雄 (打楽器)

協力団員 伊藤 惣一  
地方在住団員 田嶋恵美子

一九九三年四月一日現在

〔本年度委員〕  
運印 運営委員

〈団友〉

〈賛助会員〉  
滝沢 修 青木 誠  
野坂 操寿 秋浜 悟史  
鶴田 錦史 荒谷 俊治  
霜島 邦子 稲垣 隆史  
古川羽衣山 小田切清光  
丹野井成寿 川崎絵都夫  
増田 啓子 川崎 祥悦  
菊地 悌子  
楠 知子  
鞍掛 昭二  
鯉沼 広行  
坂田 進一  
佐藤 敏直  
芝 祐靖  
清水 義矩

杉浦 弘和 星 旭  
砂崎 知子 増田 睦美  
芹沢 英雄 三木 稔  
高野 文子 宮本 幸子  
田嶋 直子 望月 太八  
田中 利光 元橋 康男  
鶴野 和子 矢崎 明子  
戸井 昌造 柳家小三治  
藤舎 昌悦 横山 勝也  
藤舎 呂船  
仲俣申喜男  
野口 鎮  
半田 淳子  
広瀬 量平  
福田 輝久  
鳳声 晴由  
張 暁輝

〈日本音楽協会支部〉

関西支部 田嶋直士  
水戸支部 齊藤幸山  
長野支部 佐藤幸宇山  
山梨支部 郷兎  
長崎支部 牧山雅楽郁  
熊本支部 古川羽衣山  
秋田支部 野口裕子  
TEI  
TEI  
TEI  
TEI  
TEI  
邦楽の会(つばら事務局)



# 長沢勝俊 邦楽器作品表

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
1963	尺八三本のための小曲	尺八(3)	東京尺八三重奏団 (委嘱)	10	
1964	尺八・弦・打楽器のための コンチェルト・グロッソ	尺八(3)、ビオラ(2)、チェロ (2)、打(2)	東京尺八三重奏団 (委嘱) 他	15	
	子供のための組曲	尺八(3)、三味線、琵琶、 箏(2)、十七絃、打(2)	日本音楽集団(第1回 定期) 指揮・横山千秋	18	(レ)RCA
1965	愛の架け橋 (和田芳恵作・中江隆介作詞)	メゾ・ソプラノ独唱、混声 合唱、笛、尺八(2)、三味線、 箏(2)、十七絃、打(2)	木村宏子、日唱、 日本音楽集団 指揮・横山千秋	16	
1966	子供の四季	バリトン独唱、児童合唱、 笛、尺八(2)、三味線、琵琶、 十七絃、打(3)	池田明良、東京放送児 童合唱団、日本音楽集 団、指揮・横山千秋	14	(レ)コロムビア NHK委嘱
	組曲「人形風土記」	笛、尺八(2)、三味線、琵琶、 箏(2)、十七絃、打(2)	日本音楽集団 指揮・横山千秋	25	(レ)RCA
1967	三味線協奏曲	三味線ソロ、笛、尺八(2)、 琵琶、箏(2)、十七絃、打(2)	杉浦弘和 日本音楽集団 指揮・横山千秋	16	(レ)RCA
1968	日本民俗詩より「恋の歌」	アルト・テナー独唱、笛、 打(3)	日野テル子、立川澄人 日本音楽集団	10	NHK委嘱
	箏四重奏曲	箏(3)、十七絃	坂井敏子、白根きぬ子 野坂恵子、宮本幸子	9	(レ)RCA (CD)ビクター (出)全音、大日本家庭音楽会 NHK委嘱
1969	箏三重奏曲	箏(2)、十七絃	さわらび会(委嘱)	13	(出)大日本家庭音楽会
	詩曲—独奏尺八のための—	尺八	宮田耕八朗	8	(レ)RCA (出)全音
1970	二つの舞曲	笛、尺八(3)、三味線、琵琶、 箏(2)、二十絃箏、十七絃、 打(3)	日本音楽集団 指揮・山田一雄	14	(レ)RCA
	リコーダーと尺八のための ファンタジア	リコーダー、尺八	上杉紅童(委嘱) 古賀将之	5	
1971	萌春—尺八・箏による—	尺八、箏	坂田誠山 白根きぬ子	10	(レ)RCA (CD)ビクター (出)全音、大日本家庭音楽会
	交響的幻想曲「朱輪金鈴」	笛、尺八(6)、三味線(2)、 琵琶、箏(6)、十七絃、打(8)	日本音楽集団 指揮・石橋義也	19	NHK委嘱
1972	絵馬—尺八とピアノによる—	尺八、ピアノ	宮田耕八朗(委嘱) 中島和子	10	
	まゆだまのうた	箏、尺八	吉岡紘子(委嘱) 宮田耕八朗	9	(レ)RCA (カ)大日本家庭 音楽会 (出)全音、大日本 家庭音楽会
1973	みち—日本楽器による八人の 奏者のための	笛、尺八、三味線、琵琶、 箏(3)、十七絃	日本音楽集団(新人 演奏会)	11	
	錦木によせて—五つの小品—	二十絃箏	野坂恵子(委嘱)	13	(レ)RCA
	二つの田園詩	尺八、箏、十七絃	井上昌山(委嘱) 井上優子、吉岡紘子	8	(レ)RCA (CD)ビクター (出)全音 (出・カ)大日本家庭音楽会
1974	日本楽器による幻想曲	尺八(3)、琵琶、箏(2)、 十七絃	NHK邦楽技能者育成 会(委嘱) 指揮・長沢勝俊	9	
	板碑(いたび)のうた —尺八と弦楽合奏による—	尺八ソロ、弦楽合奏	宮田耕八朗 東京ゾリステン 指揮・田村拓男	12	

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
1975	楽しい練習曲	尺八、箏(1)あるいは(2)			(レ)ビクター (出)全音
	四つの前奏曲 —十七絃による—	十七絃	宮本幸子(委嘱)	13	
	颯踏(さつとう) —笛と打楽器のための音楽—	笛、打(2)	望月太八、尾崎太一 藤舎成敏	17	(レ)RCA
	迦河(そか)(小田切清光詩)	琵琶弾きがたり	半田淳子	22	
1976	竜女の玉—竹取物語より— (海津勝一郎作)	笙、笛、尺八(3)、三味線(2)、 琵琶、箏、二十絃箏、十七 絃、打(3)、語り	語り・稲垣隆史 日本音楽集団 指揮・田村拓男	30	
1977	飛驒によせる三つのバラード	尺八、箏(3)、十七絃	桐韻会(委嘱)	15	(レ)RCA (CD)ビクター (出・カ)大日本家庭音楽会
	春三題—三絃と箏による—	地歌三絃、箏	森の会(委嘱) 沢井忠夫、沢井一恵	13	(レ)RCA (出)大日本家庭音楽会
	若竹の賦	尺八(4)		15	(出)誠和音芸 青木昭委嘱
	琵琶協奏曲 —校倉によせる幻想	琵琶ソロ、笛、尺八(2)、 三味線、琵琶、箏(2)、十七 絃、打(2)	山田美喜子(委嘱) 日本音楽集団	13	
1978	二群の箏による対話	箏(4)	新箏曲人の会(委嘱)	13	
	尺八協奏曲	尺八ソロ、笛、尺八、三味 線、琵琶、箏(2)、十七絃、 打(2)	宮田耕八朗 日本音楽集団 指揮・田村拓男	14	(レ)RCA
	二つの三味線と小鼓による 三章	三味線(2)、小鼓	杵屋静子 杵屋勝芳寿(委嘱)他	12	
	六連星(むつらぼし)	箏、尺八	亀山香能(委嘱) 三橋貴風	9	(出)大日本家庭音楽会
1979	樹冠	尺八、二十絃箏(2)、十七絃 他に尺八、箏(3)、十七絃の バージョンあり		15	(レ)ALM (出・カ)大日本家庭音楽会
	遠野の里	二十絃箏	吉村七重(委嘱)	14	
	箏協奏曲	箏ソロ、箏三部、 十七絃一部	大嶽和久(委嘱) グループ響	13	(出・カ)大日本家庭音楽会
	秋によせる三つの幻想曲	尺八、箏(2)、十七絃	京都邦楽グループ (委嘱)	15	(出・カ)大日本家庭音楽会
	ともしび三章	尺八(2)、三味線(2)、箏(2)、 十七絃	創明合奏団(委嘱) 指揮・小野衛	18	(出・カ)大日本家庭音楽会
	秋のうた—箏と尺八による—	箏、尺八	木本勝山 寺尾早知子(委嘱)	14	
1980	雪三態	箏ソロ、十七絃ソロ、 箏三部、十七絃一部	沢井忠夫、沢井一恵 沢井合奏団(委嘱)	19	
	虹の輪	笛、尺八、三味線、琵琶、 箏(2)、十七絃、打	日本音楽集団	3	
	冬の日・パート2	笛、尺八、三味線、琵琶、二 十絃箏、あるいは箏(2)、 十七絃、打	日本音楽集団	16	
	箏のしらべ	箏(2)、十七絃		10	(出・カ)大日本家庭音楽会 NHK委嘱

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
1981	大津絵幻想	笛、尺八(3)、胡弓、三味線(2)、琵琶、箏、二十絃箏、十七絃、打(2)	日本音楽集団 指揮・荒谷俊治	23	(レ)RCA
	錦木(野口達二作)	尺八(2)、箏(3)、十七絃、語り	邦楽の会つばら(委嘱) 語り・築地利三郎 指揮・長沢勝俊	30	
	玉桂	三味線	杵屋静子(委嘱)	11	
	むさし野	笛、尺八、三味線、琵琶、二十絃箏、十七絃、打	日本音楽集団	8	
1982	光の春—日本楽器による八人の奏者のための—	尺八、三味線、箏、二十絃箏(2)、十七絃、打(2)	日本音楽集団 (新人演奏会)	10	
	国東の賦	琵琶、地歌三絃、十七絃	山田美喜子(委嘱) 矢崎明子、菊地梯子	13	
	香—かぐわしき琵琶の音によせて—	琵琶ソロ、笛、尺八、箏、十七絃	半田淳子(委嘱) 他	17	(レ・カ)テイテク
	北国雪賦	地唄三絃、箏(3)、十七絃	宮城合奏団(委嘱)	17	(出)大日本家庭音楽会
1983	寿歌(ほぎうた)	(日本の楽器) 笛、尺八(2)、胡弓、琵琶、三味線(2)、箏、二十絃箏、十七絃、打(2) (中国の楽器) 笛、笙、小管、噴呐、小柳琴、琵琶、大三絃、高胡、二胡、中胡、大革胡、打(2)	日本音楽集団 中国中央民族楽団 指揮・田村拓男	5	
	有明の月	尺八ソロ		7	(出)誠和音芸
	飛翔	尺八(2)		8	(出)誠和音芸
	風によせる三つの前奏曲	箏、尺八	木本勝山 寺尾早智子(委嘱)	15	
	鳥と砂と海と	笛、尺八(2)、胡弓、三味線、琵琶、箏(3)、十七絃、打(2)	日本音楽集団 指揮・田村拓男	15	
1984	組曲「人形風土記」第二番	笛、尺八(2)、胡弓、三味線(2)、琵琶、箏(2)、十七絃、打(2)	日本音楽集団 指揮・田村拓男		
	冬暁(とうぎょう)	尺八、十七絃	坂田誠山(委嘱) 宮本幸子		
1985	秋の一日	笛、尺八、三味線、琵琶、二十絃箏あるいは箏(2)、十七絃、打	日本音楽集団	16	
	呉竹箏玲	尺八(5)、箏	尺八「1979」委嘱	10	
1986	コロポックルのうた	尺八、三味線、箏	新典音楽協会(委嘱)	8	(出・カ)新典音楽協会
	四つの小品	尺八(2)、三味線、箏(2)、十七絃	日本音楽集団 (夏期合奏研究会のための曲をまとめたもの)	16	(出)大日本家庭音楽会
	紅花の曲	箏ソロ	白根きぬ子(委嘱)	8	
1987	彫板(えりいた)	笛、尺八(3)、胡弓、三味線(2)、琵琶、箏、二十絃箏、十七絃、打(2)	日本音楽集団 指揮・田村拓男	20	
1988	冬芽(とうが)	箏(2)、十七絃	宮城会(委嘱)	15	

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
1989	春告草(はるつげぐさ)	尺八、箏(2)、十七絃	宮城会(委嘱)	15	
	仲秋のうた	胡弓ソロ	塚越清子(委嘱)	7	
	胡弓と箏による二章	胡弓、箏	野口裕子(委嘱) 飯島香保理	12	
1990	斑鳩(いかるが)へのみち	笙、ひちりき、竜笛、尺八、 三味線、箏、打	日本音楽集団 (研修生コンサート)	8	
	箏三重奏曲 —琴引浜によせて—	箏(2)、十七絃	箏・三味(委嘱)	10	
	風流変容(ふりゅうへんよう) —笛と打楽器による—	笛、打(3)	日本音楽集団	12	
1991	清泉飛瀑 —熊本の水によせて—	尺八、三味線、箏(2)、 十七絃、打	熊本箏演奏者協会 (委嘱)	15	
	寿歌(ほぎうた)第二番	箏ソロ、十七絃ソロ 韓国民族楽器合奏	花房はるえ、宮越圭子 ソウル中央国楽管絃 楽団	10	
1992	水煙風鐸	三味線、箏(2)、十七絃	宮城合奏団(委嘱)	18	
	伶—十八絃箏と箏群による 協奏曲—	十八絃ソロ、箏二部、 十五絃一部、十七絃一部	佐藤紀子(委嘱) 日本音楽アンサンブル	17	
	三重幻想	尺八、三味線、箏(2)、 十七絃、打		18	三重県三曲協会委嘱
	新三曲「うちなと津軽」	箏、尺八、三味線	花房はるえ(委嘱) 宮田耕八朗、杉浦弘和	11	
	寿歌(ほぎうた)第三番	箏、二胡、ピリ	花房はるえ(委嘱) 姜建華、李青雄	15	
1993	トンコリのうた	二十絃箏、十七絃	木村玲子、宮越圭子	10	
	二胡協奏曲	二胡ソロ、笛、尺八(3)、 琵琶、箏(2)、十七絃、打(2)	姜建華 日本音楽集団 指揮・稲田康	15	

(注) 打=打楽器 出=出版社 レ=レコード会社 カ=カセット

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現す  
るために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437